

健やか親子表彰 — 企業部門 優秀賞 —

株式会社松本山雅

小児入院患者に付き添いをされる保護者の方々へのサポートプロジェクト

活動の目的



小児患者が入院治療を受ける際、未就学児においては常時保護者の付き添いが必要となります。しかし、その保護者の食事は病院から提供することはできず、保護者それぞれで調達をしなければなりません。調達の選択肢は主に自宅からの差し入れか病院内のコンビニエンスストアで購入の二つとなります。そのうえ、当院入院中の小児患者は松本地域だけではなく信州全域や隣県から来られること、また病院内のコンビニエンスストアで買う場合病棟専属の保育士に子供を預けなくてはなりません。常時5~10人の小児患者付き添いの保護者に対して1人の保育士の配置であるため保育士が1人の子供を預かれる時間は限られてしまいます。

以前から「ママサポ企画」と称して、妊産婦がサッカー観戦できるようにする企画やメンタルヘルス不調を抱える妊産婦や父親母親の無料相談ブースの設置などを行なって参りました。

本課題に対しても2023年から議論・調整を続け、松本山雅FCの選手達に食事を提供するクラブ直営の「喫茶山雅」が定期的に小児患者に付き添う保護者に対してお弁当を届けるプロジェクトを協働することと致しました。お弁当は松本山雅FCの選手達に提供する栄養面を考慮した食材を使用して作っております。またお弁当を届ける際は松本山雅FCの選手も同席し、写真撮影やサインなどを通じて小児患者に付き添う保護者を応援する仕組みとなっております。

具体的な取組内容

クラブ所属の選手と参加者が対面で食事についての現状をお話いただき、満足な食事ができていない実情をお伺いしました。

その後、子どもたちの病気や容体、付き添う際の大変さなどを保護者の方々からお話いただき、様々な境遇の方が小児病棟に入院されていることを知りました。今回の企画をとても楽しみにしていた方や選手への質問を事前に考えてくれた子どもたちも居て、和やかな雰囲気ですべての座談会が行われました。お弁当の中身については、喫茶山雅シェフから栄養についてはもちろんのこと季節を感じられる食材の採用や彩りについてなど食の大切さを交えながら説明があり、シェフからのお話の後、選手より保護者の方々へお弁当をお渡しさせていただきました。

お弁当贈呈後に、子どもたちとの交流を行い、写真撮影やサイン、また松本山雅FCグッズをプレゼントし、楽しい時間を過ごしました。

初回実施の際は、病室から出ることのできない子どもたちの病室へ先生の許可を得て入室し、交流を行いました。

容体も良かったようで、選手との会話もとても弾んでいました。また、この企画を心待ちにしていたようで、選手に会いたい思いが容体を良くしたと看護師もお話して下さり、今回の活動が様々な人に力を与えているように感じました。

企画の反響が非常に大きく、多くの方から活動への協力や活動資金の寄付の申し出などがあり、そのような方々にも様々な方法でご協力・ご協賛頂ける方法を現在検討中です。

検討中のご協賛方法として、選手参加のサッカークリニック・選手プロデュースグッズ・企画チケットなどを検討しています。この活動が長く継続し、より良いサポートに繋がるように考えております。



健やか親子21表彰 優秀賞

受賞者の声 担当者: 上田 将太郎

● 取組を始めた経緯は何ですか？

地域課題への解決の為に、様々な取り組みを行ってまいりましたが、このような課題がある事を相談されてクラブの強みや特色を出して、そして未就学の小児患者の付き添い保護者への環境が改善される取り組みができないかと思ひ、今回の活動へと繋がりました。

● 具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

この活動を通じて、保護者の方が心身ともに安らげる時間となるように工夫しました。選手との小児患者とその保護者との交流(サイン・写真撮影・プレゼントなど)お弁当の栄養面、旬の食材を意図的に使用する、お弁当の蓋を開けた時のインパクトある彩。

● 取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

病院・選手・シェフとのスケジュール調整。お弁当をおいしく召し上がっていただくための配慮について。参加者した方々を楽しませるための内容について。実施日に派遣する選手の選定について。継続的に活動を実施するための資金捻出のための施策。

● 取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

実施する曜日や週をある程度毎月固定して実施。病院へ行く直前に盛り付けをしてもらい、作り立てに近い状態でお渡しする。選手がプレイルームにある玩具で子どもと遊んだり、保育士の方がゲームなどを考えてくれたりしている。子どもの居る選手を選定するなどしている。

● 今後の展望・課題は？

協賛金を募り、継続的に活動できる仕組みを構築していきたいと思っています。協賛金の金額次第では、プレイルームで松本山雅FCの試合観戦ができたり、退院したご家族を試合に招待する事も検討している。協賛金を募る方法として、選手参加のサッカー教室などを検出中です。

評価委員からのコメント

入院治療を要する患児に付き添う保護者にとって、付き添い期間中の食事調達は切実な課題です。株式会社松本山雅は企業の強みを活かして、保護者に届ける弁当の栄養面や彩りに配慮するだけでなく、弁当を届ける機会を患児と保護者の記憶に残るイベントに昇華させることに成功している事例です。

実践女子大学 生活科学部食生活科学科 教授 佐々木 溪円

小児入院患者に付き添いをされる保護者の方々へのサポートに着目して、栄養バランスのとれたお弁当の提供のみならず、サッカー選手との交流や体験の機会提供など活動を展開されていることを頼もしく思いました。活動の継続と共に、全国のサッカーチームに呼びかけ、他の地域に取組を広げていただけることを期待します。

NPO法人せたがや子育てネット 代表理事 松田 妙子

お弁当の提供やスポーツ選手との交流を通じ、入院中のお子さんと付き添いの保護者を温かく支える活動です。賛同された方たちが支援に加わるなど、社会全体で子ども達の健やかな成長を育み、子育て中の親を孤立させない地域づくりにも寄与されています。今後、このような取組が、全国の企業に横展開されることを期待します。

栃木県保健福祉部 子ども政策課 鈴木 祐美

大学病院など小児科病棟の患者さんは長期にわたって入院をされている場合があり、病気の困難だけでなく家族の付き添いなど苦労も伴います。家族に対する食事の提供や地域のプロサッカーチーム選手の訪問など、子どもたち、家族へと直接届ける支援が高く評価されました。ご受賞おめでとうございます!

北海道医療大学心理科学部 教授 柳生 一自